

1. 今年度の取り組み（前年度の「FD 年間報告書」から修正）

2023（令和5）年度の総括によれば、「授業到達目標の到達度を重視して調査を行い、1年次生の入門科目、2年次生以降の専門科目ともに、「到達できた」と回答した学生が95%以上と概ね良好な状況が示され」た。また「1年次生の入門演習A・Bについての満足度は85～89%と高い評価を得ており、今後も少人数クラスでの講義が必要であることを認識できた」。その一方で、「学習成果実感調査の回答率が30%前後と低いこと並びに、到達度と比較して満足度が低いことを踏まえて、授業に関心も持ってもらうことが必要であり、学生目線での授業内容や形式（遠隔、AIなど）を検討していく必要がある」といった課題が指摘された。

こうした課題を踏まえ、2026（令和8）年度（当初は2025（令和7）年度の予定であったが変更になった）を目途に導入する新カリキュラムに向け、引き続き、学生の学修情報の蓄積を図り、大学DXの推進など満足度を高める授業へと変革していく必要がある。

2. 「1」を踏まえて、今年度の重点テーマ・目的・期待する効果等についてお書きください。

(1) テーマ：

アセスメント科目における学修成果の確認

(2) 目的：

上記のような課題をふまえ、引き続き、学生の学修情報の蓄積を図り、学生の満足度を高める授業への変革を試みるべく施策を継続することが必要である。

また、本年度よりアセスメント科目（社会学入門A、社会学入門B、演習I、演習II、プロジェクト演習I、プロジェクト演習II）を設定したことから、今後これらの科目の学修成果の検証を通じて、本学部の学位プログラムの教育効果を検証する体制構築についても検討する必要がある。

以上から、本年度はこれらアセスメント科目に該当する科目を取り上げ、昨年に引き続き学習成果実感調査を主な素材としながら、満足度、到達度等に留意しつつ分析を試みる。加えて、こうした分析を通じて、学位プログラムの検証体制を築くための準備を行う。

(3) 期待する効果：

アセスメント科目を中心に検証を実施することで、今後のカリキュラム改善のための参考資料を得ることができる。

3. 公開授業等について

公開授業やワークショップは、教員間で教授法を学び合う機会、学部のカリキュラム改善等について検討する機会として年1回以上設定・実施してください。

なお、実施にあたっては、出席者の記録をお願いいたします。出席者記録の提出は不要ですが、年間報告書にて、出席人数の記載をお願いいたします。

なお、出席者記録は、提出をお願いする場合がありますので、保管しておいてください。

(1) 公開授業・ワークショップ：

※公開授業と公開授業に関するワークショップが対象

検討中

(2) その他研修会等：

※ (1) 以外の学部 FD として実施する研修会が対象（人権研修会を除く）

検討中

※この内容は本学における FD 活動の一環として、本学 HP に掲載します。